

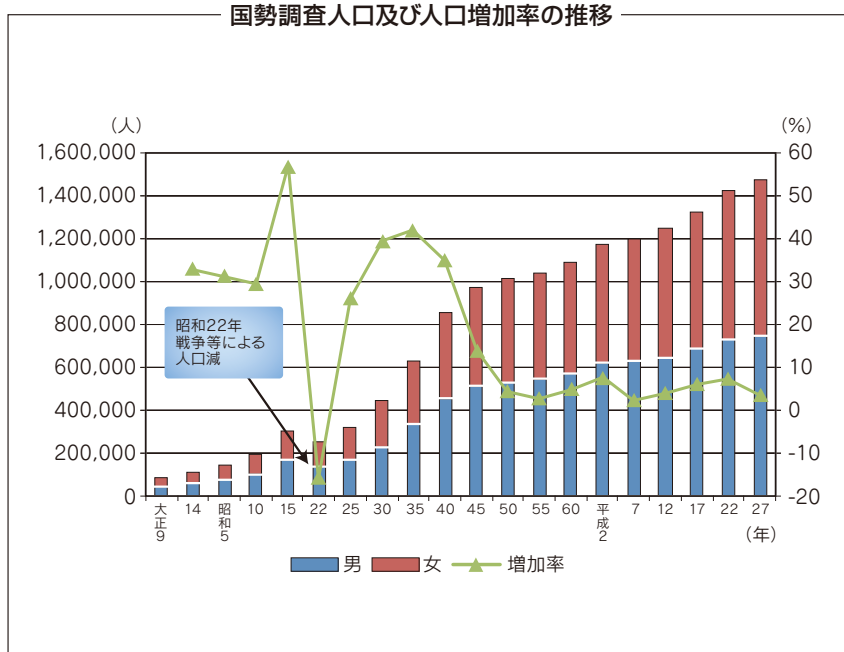
平成27年国勢調査速報、 統計ニュース

「平成27年国勢調査結果(人口速報)」と川崎市の人口に関する統計の最新状況をまとめたニュースを表、グラフを用いてわかりやすくまとめました。

※平成27年国勢調査結果(人口速報)は、平成28年2月に総務省から公表された、平成27年国勢調査(平成27年10月1日現在)の「人口速報集計結果」を基に川崎市に関する調査結果を分析・集計したものです。後日、総務省から公表される確定値と数値が相違することがあります。



●川崎市の人口の推移



●10年間の人口の推移

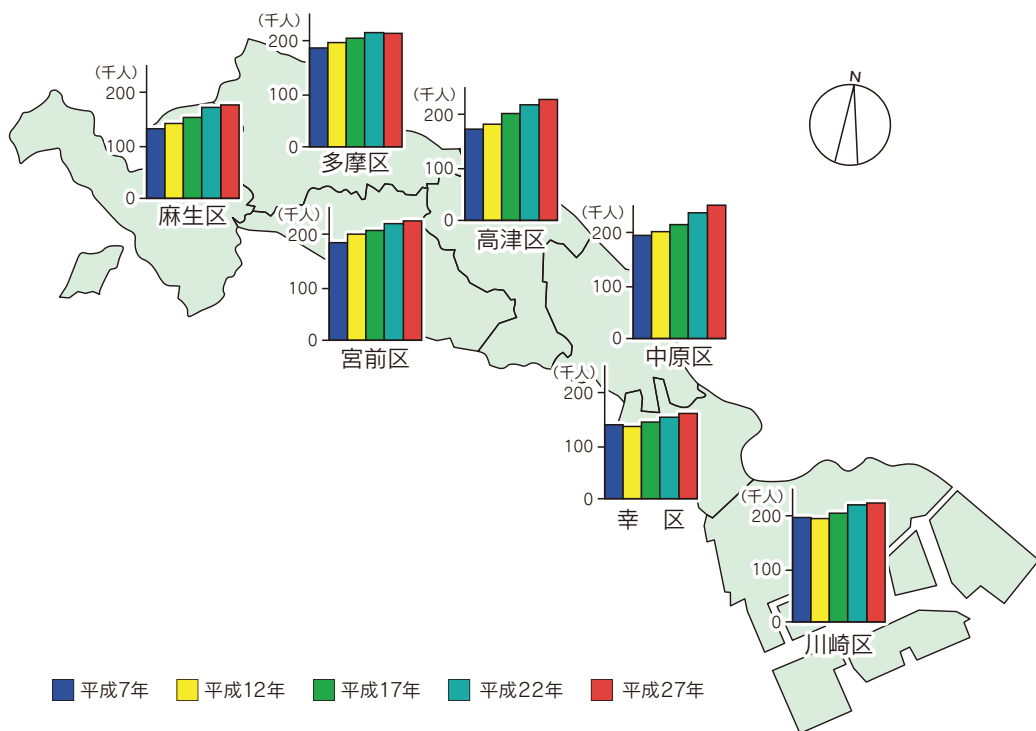
年次	世帯数	人口			対前回増加数	対前回増加率(%)
		総数	男	女		
平成17年	595,513	1,327,011	687,080	639,931	—	—
22年	662,694	1,425,512	728,525	696,987	98,501	7.4
27年	691,236	1,475,300	748,874	726,426	49,788	3.5

*大正9年から平成7年までの人口は現在の市域(144.35K㎡)の人口に組みかえている。

平成27年国勢調査結果の速報値によると、平成27年10月1日現在の川崎市の総人口は147万5,300人で、前回の平成22年国勢調査結果と比べて4万9,788人(3.5%)増加しました。

● 区別人口

区別	世帯数	人口			平成22年人口	対前回増加数
		総数	男	女		
川崎区	109,474	223,440	119,443	103,997	217,328	6,112
幸区	75,139	160,864	81,204	79,660	154,212	6,652
中原区	123,312	247,476	126,922	120,554	233,925	13,551
高津区	107,920	228,119	114,997	113,122	217,360	10,759
宮前区	94,754	225,604	110,793	114,811	218,867	6,737
多摩区	106,390	214,240	110,035	104,205	213,894	346
麻生区	74,247	175,557	85,480	90,077	169,926	5,631



区別の人口をみると、人口、対前回増加数それぞれ中原区が最も多く、次いで高津区、宮前区の順になっています。

前回に比べて全ての区で人口が増加し、多摩区を除く全ての区で5,000人以上増加しました。

● 地図でみる町丁別人口増加率

麻生区はるひ野4丁目
55.4%増加

麻生区はるひ野5丁目
104.7%増加

麻生区はるひ野3丁目
77.4%増加

麻生区片平8丁目
83.6%増加

宮前区鷺沼4丁目
53.8%増加

中原区新城2丁目
57.0%増加

中原区小杉町3丁目
119.5%増加

川崎区港町
770.3%増加

川崎区宮本町
52.4%増加

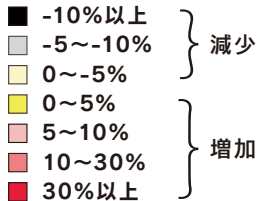
川崎区小田栄2丁目
51.7%増加



人口増加数上位10位

1位	川崎区	港町	3,166人増
2位	中原区	小杉町3丁目	2,058人増
3位	川崎区	小田栄2丁目	1,765人増
4位	中原区	新丸子東3丁目	1,557人増
5位	中原区	中丸子	1,517人増
6位	高津区	二子1丁目	1,226人増
7位	宮前区	犬蔵3丁目	1,213人増
8位	宮前区	犬蔵2丁目	1,169人増
9位	宮前区	鷺沼4丁目	1,070人増
10位	宮前区	馬絹	985人増

町丁別人口増加率

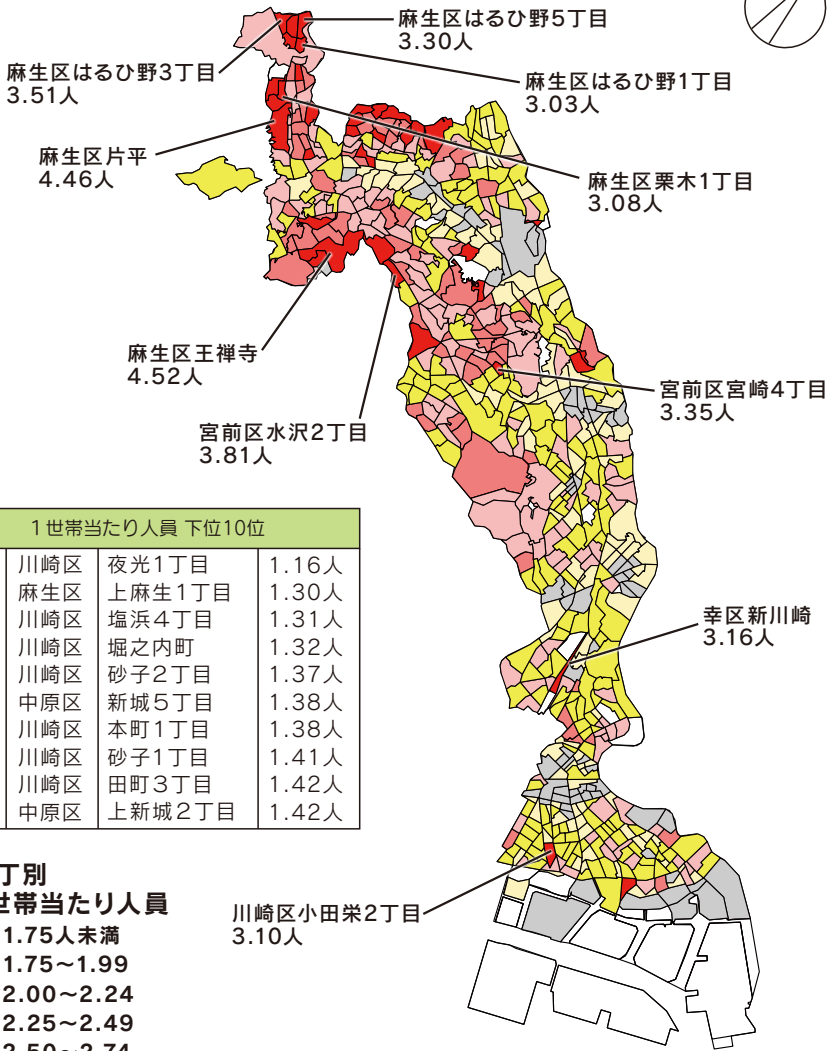


※(1) 50世帯以上の町丁を集計。

(2) 平成22年10月1日以降に住居表示が実施された区域については、増減の把握ができないため、表示していない。

前回の平成22年国勢調査以降5年間の人口増加率を町丁別に色分けしました。人口増加率が高かった町丁においては、マンション建設や宅地造成などの影響がありました。

● 地図でみる町丁別1世帯当たり人員



1世帯当たり人員 下位10位			
1位	川崎区	夜光1丁目	1.16人
2位	麻生区	上麻生1丁目	1.30人
3位	川崎区	塩浜4丁目	1.31人
4位	川崎区	堀之内町	1.32人
5位	川崎区	砂子2丁目	1.37人
6位	中原区	新城5丁目	1.38人
7位	川崎区	本町1丁目	1.38人
8位	川崎区	砂子1丁目	1.41人
9位	川崎区	田町3丁目	1.42人
10位	中原区	上新城2丁目	1.42人

町丁別
1世帯当たり人員

- 1.75人未満
- 1.75~1.99
- 2.00~2.24
- 2.25~2.49
- 2.50~2.74
- 2.75人以上 ※50世帯以上の町丁を集計。

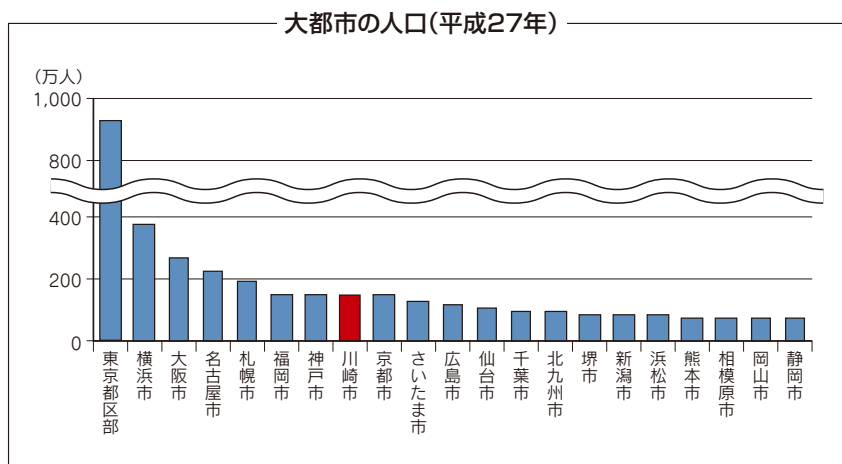
1世帯当たり人員を町丁別に色分けしました。
北部に1世帯当たり人員の多い町丁が集中していることがわかります。

●大都市の人口、人口増加数、増加率

	都 市	人 口		人口 増加数	人口 増加率(%)
		平成27年	平成22年		
1	福 岡 市	1,538,510	1,463,743	74,767	5.11
2	東京都区部	9,272,565	8,945,695	326,870	3.65
3	川 崎 市	1,475,300	1,425,512	49,788	3.49
4	仙 台 市	1,082,185	1,045,986	36,199	3.46
5	さいたま市	1,264,253	1,222,434	41,819	3.42
6	札 幌 市	1,953,784	1,913,545	40,239	2.10
7	広 島 市	1,194,507	1,173,843	20,664	1.76
8	名古屋市	2,296,014	2,263,894	32,120	1.42
9	岡 山 市	719,584	709,584	10,000	1.41
10	千葉市	972,639	961,749	10,890	1.13
∴	∴	∴	∴	∴	∴
	平 均	1,751,306	1,718,955	32,351	1.24

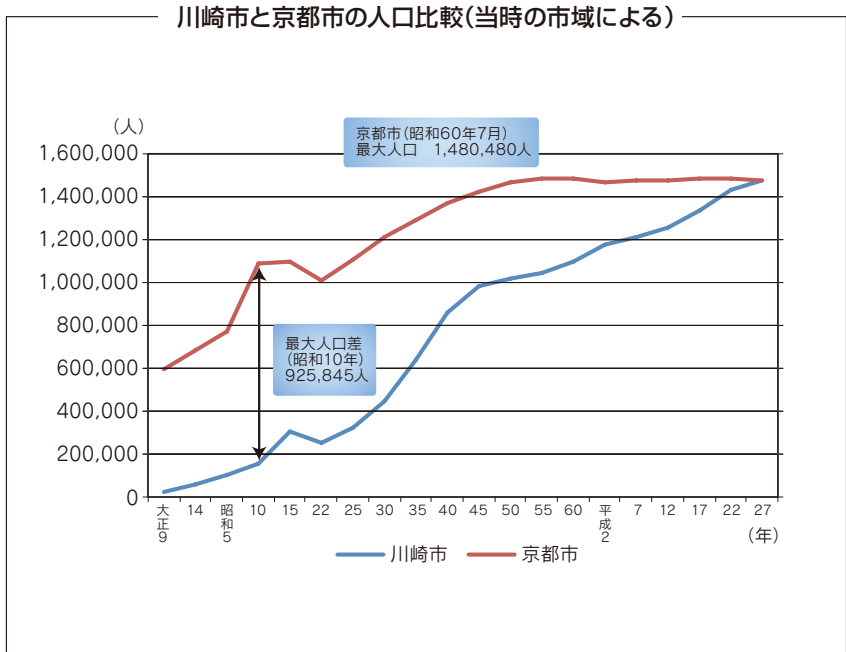
* (1) 表の平均は、政令指定都市20都市、東京都区部の平均値である。

(2) 表の都市順は人口増加率の高い順である。



政令指定都市20都市に東京都区部を加えた21大都市で比較すると、川崎市の人口は8位(政令市で7位)、対前回人口増加数、人口増加率ともに3位という結果になりました。

①平成27年4月に京都市の人口を上回り、全国で第7位に！



川崎市と京都市の人口比較表

	大正9年	昭和10年	平成2年	平成22年	平成27年
川崎市	37,293	154,748	1,173,603	1,425,512	1,466,444
京都市	591,323	1,080,593	1,461,103	1,474,015	1,465,994
人口差	△ 554,030	△ 925,845	△ 287,500	△ 48,503	450

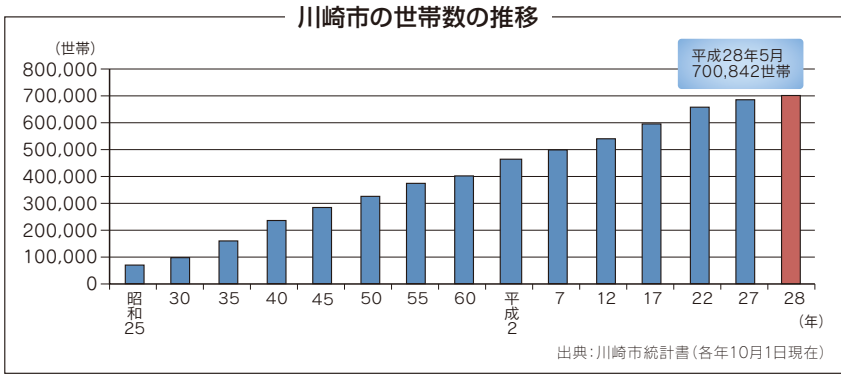
※(1)大正9年は川崎町、御幸村、大師河原村の合計である。
 (2)平成27年は4月1日現在の数値である。

出典:川崎市統計書、京都市統計書(各年10月1日現在)

大正9年に行われた第1回国勢調査では、大正13年市制施行当時の川崎市にあたる川崎町、御幸村、大師河原村を合計すると3万7,293人、京都市591,323人でした。最大の人口差があったのは昭和10年の92万5,845人でした。

川崎市は戦後一貫して人口増加が続き、平成27年4月1日に京都市の人口を上回りました。

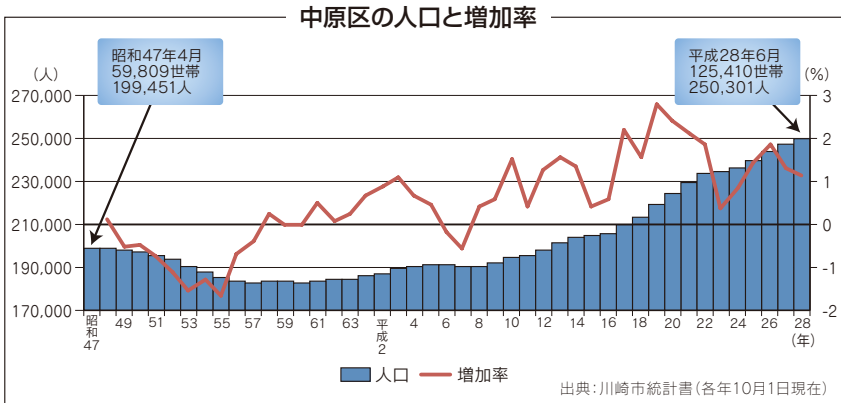
②平成28年5月に70万世帯突破



* 平成27年は国勢調査速報値によるものである。平成28年5月は平成27年国勢調査速報に基づく推算値である。

市制施行当時の川崎市の世帯数は約1万世帯でしたが、戦後一貫して増加し、政令指定都市に移行した翌年の昭和48年に30万世帯、平成6年には50万世帯を突破し、平成28年5月に70万世帯を突破しました。

③平成28年6月に中原区の人口が25万人を突破



* (1) 昭和47年は4月1日現在の数値である。

(2) 平成27年は国勢調査速報値によるものである。平成28年6月は平成27年国勢調査速報に基づく推算値である。

川崎市が政令指定都市に移行し、中原区が誕生したときの人口は19万9,451人でした。武蔵小杉駅周辺の再開発や交通利便性の向上などによって平成17年頃から人口増加が顕著となり、平成28年6月に25万人を突破しました。